



5月になれば。

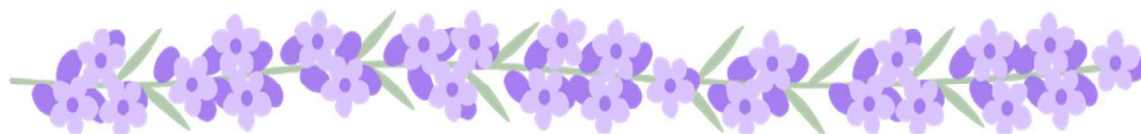
札幌報恩学園
園長 富田 栄子



今年は雪解けも早く、いつもの年より春の到来が早かったようです。歳を重ねるにつれ春の訪れを待ち遠しく感じるこの頃ですが、特に今年の春はコロナ感染症への規制が緩和されるということもあり5月を心待ちにしていました。

今まで4年近くコロナに振り回され、第8波の時はこれまでいろいろと取り組んできたのにもかかわらず、次々と感染してしまいました。実に利用者様の9割、職員の8割が感染したことになります。札幌報恩学園には高齢の方や基礎疾患を抱えている方がたくさん生活していますので、終息するまでの一か月間は生きた心地がしませんでした。目に見えない感染症の恐ろしさに無力感を感じながらも、果敢に現場に向かっていく職員の頑張りには感謝しかありません。幸い誰も重症化しなかったことに安堵したのと同時に人間が持つ生命力の強さも感じました。

現在は外出や帰省など段階的に緩和され、徐々に以前の生活に戻りつつあります。基本的な対策を取りながらも、利用者様が笑顔になれるような楽しいことに取り組んでいきたいと思っています。



札幌報恩会の歴史 やっと10分の1近づきました！



まごころ保育園
園長 中瀬 由美



今年の4月で開園12年目に入りました。月日の経つのは早いですね。卒園した園児は100名を超え、幾重の出会いと別れを経験し、たくさんの思い出もできました。毎日元気いっぱい子ども達の声に、笑顔で手を振り、声をかけてくださる利用者様に、子ども達は見守られ優しさと安心をいただき、すくすくと成長しております。職員のマスク顔の影響は子ども達、利用者様にも大きな影響があったと感じます。命を守ることとコミュニケーションが奪われていくこととの天秤は、とても心が痛い課題でした。

法人の中を散歩すると、あたたかい風が吹いているように感じます。やさしく頬をなでていく春風のようなです。100年を超えた歴史の中で培ってきた人と人とのつながりを大切にしてきた風土が、そう感じさせているのでしょうか。子ども達は、「今」を元気いっぱいに生きています。とは言え、子ども達の話す声、笑い声、泣き声が時折元気過ぎて、利用者様にご迷惑をおかけしていることも多々あると思います。そこは、大目に見ていただき、子ども達の元気な風が利用者様の元へ届いていたなら、この上ない幸せです。